

一九八九年度第一回運営委員会記録

二、議題

(一) 今年度の共通課題について

検討の結果「農村社会編成の論理と展開—転換期の家と農業経営—」と決定した。

(二) 第一回研究会について

一九八九年二月四日(土)に研究会を開催する。報告者には宿題委員の安原茂会員に依頼することを決定した。第一回研究会の前に宿題委員会を開催して検討してもらう。

(三) その他

高橋会員から、「国際交流委員会」(仮称)の役割について私見が報告された。準備委員会としてまとまり次第会報でお知らせする。

日時 一九八八年十一月二六日(土)二時～五時
場所 中央大学駿河台記念館五〇五号室
出席者 相川、大川、柿崎、工藤、酒井、高山、高橋、長谷川、布施、
松岡、松田、若林、吉沢

一、報告

(一) 高橋研究連絡委員から事務局に次のような申し入れがあった。
「一九九一年に国際農業経済学会(会長 梶井功農工大教授)の開催が日本で予定されています。このとき農村社会学者も来日が予定されていますので、世界農村社会学会のアジア部会を開催することも考えられます。したがって、社会学研究連絡委員会が、国際農業経済学会の開催に賛同し、協力するという態度を表明していただくよう村研から申し入れていただきたい」。事務局では村研内に「国際交流委員会(仮称)が設けられようとしている時もあり、国際化に向けての一つの當みと思い、運営委員の賛否をはがきで回答してもらった。運営委員三七名のうち三一名の賛同がえられたので、十一月八日開催の社会学研究連絡委員会において高橋委員から村研の態度を表明してもらつた。